

- ・週1回のサーキット(ぞうきんがけ、リズム体操、舞台からおりる、手押し車、ケンケン(難しい)、スクーターボード、人間ブランコ)
- ・プレイルーム(自分のやりたい遊具の順番を決めて、カードで表す。トランポリン、スクーターボード、バランスボール、ハンモック等)
- ・キャッチボール52回、
- ・ボール蹴り
- ・ストレッチ・長座前屈40回
- ・マラソン集会では介助者と一緒に走る。
- ・マラソン大会700m7分19秒で走る。
- ・お腹が痛い→お腹をおさえる。
- ・胸が痛い→胸をトントンする。

〈目標〉・リラックスして、ストレッチに取り組むことができる。
 〈指導方法〉・ストレッチマットを用意して行う。
 〈課題〉・体の力を抜き、リラックスすること。

理学療法士と連携をとり、股関節等のストレッチを行っている。

- ・生活リズムは安定している。
- ・ケガの時は痛みを訴えることができるが、必要以上に大きさに言うこともあるので、本当にどれくらい痛いのかは、わかりにくい。
- ・筋緊張は特に、上半身、背中の方が強い。足はあまり歩かない日が続くと(長期の休みなど)緊張が高まるのか、歩き方がごちなく、足首もかたい(普段は下肢の緊張は強くない)

(目標)プール学習で、教師と背浮きを経験し、体の力を抜くことができる。→初めはうれしくて興奮し、力が入っているが、しばらくすると落ち着いて手足の力を抜いて伸ばすことができた。
 (その他)・ケガ等、痛い時、気になる時(爪かみ、さかむけの皮をむいて出血など)は患部を示しながら。アピールして、保健室に行くこと訴える。些細なことでも気にはなるが、診てもらえば安心する。ばんそう等はすぐにはがしてしまう。
 ・鼻風邪をひいて、鼻汁が出る時に情緒が不安定になり困った。鼻汁を取って欲しいと訴えたり「フーン」という声かけに鼻汁を出したりすることまでできている。とにかく大人、友達構わず手が出たり、朝の活動(鞆の片づけ、着替え、課題など)にも取り組みせず、ひっくり返って抵抗することが多く、大変だった。今後も課題、体調が悪いので、できない、やりたくないなどエスケープを訴える「おしまい(にして下さい)」ツールが必要か?と検討中

この一年間では、数回朝の目覚めが良くないこともありましたが、ほとんど毎日提示の登校バスに乗れ、下校後はレスパイトの学童保育へ行くことがあり、健康で規則正しい生活リズムだったと思います。体調不良は訴えられませんが、指をはさんだり、転んで顔などを打ち付けた時には泣くこともありました。

- ・健康の保持に関する具体的な目標は設定していません。
- ・生活のリズムに関しては、生活、自立活動の時間を中心にできるだけ身体を動かすようにしています。
- ・学習の時間割もほぼ固定されたもので、一日の学校生活の流れが、つかみやすいものになっていると思います。

- 楽しみながら継続して毎日10分程度のランニングに取り組むことができる。
- ・友達や職員と一緒に走る。
- (課題)転ばないように気をつけること
- 給食では食べすぎないよう気を付ける。
- ・少なめに盛りつけ、おかわりできるようにする。
- (課題)しっかりかまないで口の中にたくさん入れてしまう。

不調は家との連絡を密にして周りが察知する。訴えるのは難しい。鼻水、顔色、咳、動き(ハイテンションだったり、緩慢だったり)表情(貧しくなる、眠そう)などでわかる。発熱時(高熱)、しんどくて朝方泣き出すということがあった(家)。あごを蚊にさされた時、難しい顔になり、「どうしたの」と言うとなきそうな顔に。刺された所を搔いてもらおうとホッとしたような表情に(学校)。筋緊張の緩和については、声を掛けたり緊張箇所をさすっても緩和しにくい。適切なおもちゃを渡すとそちらに集中して緊張が解ける。歩行前や体育の前に足首の筋緊張を和らげるようにしている。

| |
|---|
| <p>①生活リズム・・・睡眠リズムが不規則で寝不足が重なると体調を崩すことが多かったです。保護者と話し合い「疲れをためない」「無理に登校させない」「週の真ん中に休みをとり」など体調に合わせて、元気に東子が続けられるよう配慮していただきました。体調をくずすことはあっても、長引かなくなりました。</p> <p>②体温調節・・・体温の調節がうまくいかず、夏は上がりすぎ、冬は下がりすぎ、保護者との協力の中で衣服の調節、水分摂取に気をつけること、冬に低すぎる時は無理に登校させないことを配慮していただきました。</p> <p>③歩行の安定・・・体調維持の為に学校での隙間の時間も含め、楽しみながら歩行を出来るだけするゆおにしました。腰を介助し、重心を感じさせて歩かせることもしました。</p> |
| <p>・体力、歩行力の向上を狙って→校外歩行やマラソン、階段の昇降を実施</p> |
| <p>側わんの振興防止のため、骨盤や体幹のストレッチを中心に取り組みました。</p> |
| <p>「歩行」「グルー婦学習」でしっかり体を動かして、体力を付ける</p> <p>・毎朝、クラスみんなと一緒にキャットウォークを歩く。</p> <p>上記の活動で運動量を増やし、睡眠時間を確保して生活リズムを整えることを目指した。</p> |
| <p>バランスボールでの運動を兼ねた、遊び。</p> <p>朝の運動で体を動かす。</p> <p>運動量の確保</p> |
| <p>指導課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脊柱側湾症の発症をできるだけ予防する ・日常生活の中での力みを緩和する <p>指導方法、配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体幹の傾きを改善するため両手を机の上に置かせて作業させる。 ・同じ方向ばかりむかないように時々席を替える。 ・手をつなぐ時に一方の手に偏らないように手を替える。 ・身体の使い方や緊張を弛める動作訓練を行う <p>両手挙げ 片足立ち 上体の弛め 肩甲骨の弛め</p> |
| <p>お母様が気を使ってくださっていたので高等部のときは心配、課題はありませんでした。体調不良に関しては顔色や表情で判断しました。筋緊張については抽出の自立活動で担当の教員が行いました。バランスボールを使ってのストレッチを1対1で行うことで本人もリラックスしてやっていたようです。</p> |
| <p>年間を通して欠席は少なく健康状態は良い。睡眠不足等もあったが学校生活への影響はあまり見られなかった</p> |
| <p>(実態：夏季に体温が上がりやすく多めの水分補給が必要。食事は普通食を一口大にして食べる。排尿は、自分からトイレに行こうとすることもある。)</p> |
| <p>自分の身体のイメージを持ち、コントロールした動作を獲得する。</p> <p>身体各部位をゆるめ、力の入れ方の学習をする。</p> |

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について
2. 自立活動の学習

2)心理的な安定

- ・新しい場所や人に対しては、強い拒否を示す。
- ・衝動的に何かをすることはなく、先生や友達のすることをよく見ている。
- ・儀式的行事では静香に座ってられる。

好きな人には力の限り抱きついたり、かんだりしてしまうので、「握手だけね」など言葉掛けし、ある程度の距離で接するよう教師側が心がけている。また、興奮させすぎないようにイタズラがすぎるときの（物を投げたり、倒したり）ときには、あえて相手をしないなどし、行動がエスカレートしないようにしている。「注意をひこうとついやってしまうこと」を少しでも減らすことを目標としている。ただ、やってしまった後、ダメという前に本児の行動が起こる前にこちらができる配慮をすることが、いろいろな改善につながるとして指導している。

- ・衝動性→物を「投げる」「たたく」→「ダメ」手をもってとめる。
- ・興奮性→無視をする。止まった時にほめる。・体位、環境をかえて気をそらせる。
- ・対人間関係→髪をひっぱらせない「ダメ」。・人の物はさわらせない「ダメ」。
- ・TPO→教室では、座る、静かにする。

自分の思い通りにならないときや、便秘・アレルギーなどで体調の悪いときは特に、衝動的に人を叩いたり、つばをはきかけたりする。大きな声で注意すると、よけいおもしろがって繰り返してしまう。静かに「だめよ」と諭すように注意してもすぐに改善するわけではないが、粘り強く指導する以外のよい方法が見つからない。また、理由や原因がわからないが、しばらくの間首をぐるぐるまわしていることがある。自分で気が済むとやめるが、声をかけてもなかなかやめることができない。

音、水、振動、動物、友達が好きで、すぐに興奮して状態に力が入り、声が出る。その都度静かに「だめよ」と注意したり、「今は何をやる時？」と問いかけたりすると、落ち着くことが多い。それでもだめなときは、刺激になっている対象物から遠ざけると落ち着きを取り戻すことができる。

好きな友達や女の子にきつく抱きついたり、通りすがりに叩いたりしてしまう。「それはいやだよ」「いたいからやめてね」と繰り返すことで、少しずつ改善されつつあるが、劇的な変化は見られない。

全校で話を聞く場面や、教室で静かにしないといけな場面では、本人の興奮の原因となるものが取り除かれていれば、指示を守って立ったり、座ったりしてられる。

- ・興味がある物に対しては、感情が抑えられないことがある。
- ・興味のあることで、自分でがまんすることを少しできる。
- ・自分中心の行動が多く、待つことが苦手。やりたくないのに、トイレサインや大声を出したりすることがある。
- ・自分に気を引きたくてわざと好ましくない行動（机をがたがたさせる、友達をおす等）を行うことがある。

特に目標は設けませんでした。

- ・友達が泣いている時など近寄っていく、興奮して大声をだすなどがありますが、その都度話して聞かせています。

・素直に応じて、物事に取り組む事ができる。・・・ちゃんとやらないとこまった顔をすると、よけいおもしろがってやらないので、無表情で支持をきちんとしていく指導者の姿勢が大事。

・人の嫌がる事をしないこわさない。・・・自分の作った作品などを最後にこわしてしまうことはまだ多い。人がいやな顔をするのを代とこぶと事があり、言葉かけをしている。自分に注意する相手に手が出るが、強いくことは少なくなってきた。

- ・好きな先生の前で興奮し、靴を脱ぐ、帽子やめがねなどを取ってなげる、たたくなどして関わりを求める。
- ・物が落ちる事に興味が強く、笑う
- ・人なつっこく、よく抱きつき甘える
- ・自分の思いと違う場合、頭を打ち付け抗議する。

友達とのかかわりの中で、じゃれ合いが次第にエスカレートし、力のコントロールが難しくなり、相手を叩いてしまう事や、相手が遊んでくれると勘違いをして、唾をつけようとしたり、叩こうとふざけてみたりする事がありますが、興奮する前に声をかけたり、その都度、やってはいけないことであると伝えるようにしています。また、周囲にも、遊んでくれると勘違いちてふざけてしまう事があるということを予め伝えて、かかわりに注意するように話しており、それにより、互いに距離を保ちながらかかわれるようになってきています。

それ以外では、周囲の様子をよく観察しながら、その場に応じた態度で活動することができています。

「到達目標」

相手の表現を理解して、適度なところで興奮を静める事が出来る。

「指導方法」

しかる事よりも、無視して表情を変えずに淡々と散らばったものの処理をするようにする。

「課題」

学校内の職員への共通理解

・周りの友達や教師をよく見ており

・刺激が入りやすく、好きなものに、気になる物が視界にはいると、そちらに気持ちが行ってしまうので、視界を逸らすように移動させる。

・テンションが上がったり、下がったりということが一日の生活の中で見られることがある。そんな時、ファシリテーションボールを利用したり、本の読み聞かせをしたりして、気持ちを落ち着かせるようにしている。

・抱っこすると気持ちが、安定する。

・安定した気持ちで生活を送る事が出来るように配慮している。そのため、なるべく先の見通しが持てるようにしたり、不安定な時はなるべく落ち着かせて、丁寧に言葉で説明することで、安心感を得られるようにしている。また、一日をトータルで見るようにしたり、一週間、一ヶ月と長期的な視点で考えるようにすることによって、安心した日常を作るようにしている。その他、不安定になった場合には、その背景を考える事によって、日常よりそうならない配慮や工夫をすることで、必要以上に不安定になることを未然に防ぐようにしている。(その背景とは、例えば、本人の実態合わない、授業、教材、本人の集中力の限度を超えた、時間座らせる、分かりにくい指示、一方的な指示など)

・他の人からの介助を受けて、一緒に活動に取り組む事が出来るように、本人の興味のあるものを示して、教師と一緒に活動して、その楽しさを味わえるようにする。

「到達目標」

・プライベートスペースを確保しながら会釈で挨拶できる。

・先生や友達が話をしている時は声を出さずに静かに聴く事ができる。

「指導方法」

・抱きついてくる時は、ハイタッチや握手に換えて挨拶をする。また、力が入ってしまう時は「やさしくだよ。」と声掛けをする。

・「(話している人を見るよ。」「しゃべらないよ。」と声掛けをしたり、ジェスチャーをしたりする。

「課題」

・過度なスキンシップ(抱きつき、首に手をかける)をなくしていきたいが、有効で具体的な指導方法が見つけれない。

・衝撃性、易興奮性の改善、対人関係の適切な距離感、TPO行動など

・集会等の人が多く集まる場所では、所定の席に座り続ける事が出来るようになった。以前は突然歩き回る事が多く、集中出来ない事が多かった。興奮し、気分が高揚した際は写真などの静止画や動画を見る事で情緒が安定する。人の話が終わると場に応じて拍手をする事ができる。内容を理解しているかどうかははっきりしない。

・校外に出る場合は不安になって職員と手をつなごうとする。

・コミュニケーションの手段が少なく、人に抱き付く、つばをはいて人の気を引くことがある。本人と関わりの多い人・コミュニケーションを取って反応を示す人など、特定に人にしかしない。稀に見知らぬ人にもつば吐きはあった。

- ・コミュニケーション状の誤解を減らすため、写真カードを利用し、移動先の教室やこれから行う活動について予告し、見通しが持てるように配慮した。
- ・同じ学校内の担任で指導場面を分担し、複数での関わりを意識した事で人間に関係の広がりを感じられた。
- ・本人の意思をできるだけ尊重するようにして、納得して行動できるようにした。

- ・日常と違った行動に対する対応が難しい。
- ・好きで持っている物を他の入園者に奪われた時に不穏になる(たかがその程度で問題はありません)

キーボードやギターといった楽器、ラジカセ、テレビのスピーカの部分の格子状のネットを手(爪)でこすって音を出す事が好きで、それらに触れる事により、自分の気持ちを落ち着けている様子も見られる。興味のある物をすぐに見つけ出し自分から向かっていく。ただ、それが楽しくて没頭してしまう事がある。

集団の中ではかつどうよりも自分の興味があるものに注意が向きがちだが、教員との関係や音楽等をきっかけにして集団での活動に向い楽しむ事が出来る。お話し遊びでは集団の中でメインのキャラクターの自分から関わりを求める事ができた。活動への気づきははやく、教員に注目する事ができる。教員との関わりが楽しく、スキンシップを自分から積極的に求める事が多くなった。一人で没頭して物と関わる場面があるものの、友達の活動の様子を見たり、輪の中に入ってきたり、自分から人に手を伸ばし関わる場面もある。初めての場所や場面でも自分の好きなものがないか探してみたり、あそんだりするなど自分のペースで落ち着いて行動できる。興奮はしやすい特性は持っているものの、働きかけ等で落ち着いて活動に参加している。

- ・友達への一方的なかかわり対して、声掛けやカードでいけないことを理解していく。
- ・友達の髪の毛を引っ張ってしまった時自分から手が離せたら褒める。
- ・見本を見て適切な関わり方を学んでいく。

(記録)・「唾吐き」はその都度注意している。家庭での協力で首元にバンダナをつけている。最近では、自分でバンダナを持って唾を吐く様子が見られる。

- ・何かが落ちただけでも、興奮し笑い出す事がある。
- ・友達に自分から近づき腕を掴んだり遊んだりするが、その際の距離感は、近づきすぎる傾向がある。
- ・授業参観や校外学習では、保護者を捜し回る様子や校外でも知らない人に向かって手を上げて呼ぶような行動が見られる。

- ・イライラしたり気に入らない時、近くの人(友達や教師等)に何度も手などをつねったり、ひっかいたりする。(気持ちが切り替わらない時は、物理的にキョリを取る)

まわりが盛り上がりすぎないように留意しています。

また、指示は顔(表情)を見て本児がこちらに注目しているのを確かめてから穏やかにシンプルに語りかけるようにしています。

TPO行動:状況理解ができてきたので、場に即して直前に「今から～ですから・・・しましょう。できるかな?」と言い聞かせるようにしています。

目標)・簡単な一日の見通しを持ち、落ち着いて学校生活を過ごす。

- ・小集団のグループ活動を通して、情報の安定や、対人関係の形成、状況の変化への適切な対応を図る、指導方法)
- ・朝の会や帰りの会等で予定などの視覚教材を使用し繰り返し提示する。
- ・手遊びや歌遊び、音楽の授業を通して友達や教師と自分から手をつなぐよう促す。

- ・抱き付く・・・一人一人のスタッフに抱き付き回る。それによって安心感を得ている。
- ・夜間の過ごし方等で・・・スタッフによって寝ようとしたり、歩き回ったり態度を変える。

どちらかという、男子教諭よりも女子教諭に関わりを求める事が多く、喜びから抱き付いたりすることも有りましたので、高校生ということもあり言葉とサイン(×)で抱き付くことはいけないことであると伝えるようにしました。又、手をつなぐことで、安心するのか、自分から手をつなぐ又は、腕に触れてきて一緒に移動することを求めてきた為、足場が不安定な場所以外では、高校生として対応をしていました。同じような対応を繰り返し、繰り返し行っていたと思います。

学校生活のパターン化

人が多く集まる場や慣れていない場、初めての場と比べると興奮しやすい。人に興味があり、強い力が引っ張るのである程度の距離をとりながら対峙している。担任と関係がついてくると言葉かけによってつかんでいた手をはなしたりすることができる。初めての人にもどう対処してよいかわからないようで、くっついて離れなかったり、興奮してしまうことが多い。

目標:

- ・音楽的分野で心理的安定を図る。
- ・グルーピングや自立的分野で心理的安定を図る。

取り組み:

- ・休憩時間にCDの音楽を聞いたり、音の出る知育教具で遊んだりする。
- ・音楽の授業やコンサートで音楽を楽しむ。
- ・手指を使った操作学習を楽しむ。

なかなか心の安定が図れず、意に添わないことがあったり、また相手の気を引いたりする為に手が出てしまう。今まで笑顔だったのに、いきなり人をたたいたり、ひっかいたりしてしまうことがある。適切な方法で相手と関わることを課題にしている。

- ・人が好きで誰にでも笑顔で近づいていく。特に本児から数m離れたところにいる人が気になりやすく、目の前の活動に集中できない。
- ・視覚的な刺激に影響されたり、教師や友達の活動に目がいつてしまう。

対応としては

- ・その場から去る
- ・刺激をパーテーション等でかくす
- ・他の者に興味をもっていくようにする。

〈情緒の安定〉

自分の要求がうまく相手に伝わらないことが続いたりすると、食事を摂らない、トイレに行くことを拒否する、介助者の手をきつく握って爪を立てるなどの行動になって表れることがある。そのため、本人の欲求(特に近い関係の介助者とのスキンシップ)を有る程度認めて、不満をためないようにしている。

〈対人関係の形成〉

★スキンシップ

同年代の友人(男女とも)に関心が薄く、大人＝(親、教師)との関係を求める傾向にある。自分がかかわりたい相手の衣服や髪の毛を引っ張って自分に近づけようとする行動があり、時には激しい力になることもある。そのため、力をゆるめて相手とスキンシップをとることや、接近しての親密なスキンシップでなく、手を握るなどの軽いスキンシップで満足できるようにすることを目標としている。

★相手の要求に応じた行動

他人から要求された行動を理解しておこなうことができることが課題である。そのため、お天気カードやごみ箱など、手に取りやすい物を「ちょうだい」と求める相手に手渡すことを目標にして学習し、力の伸び具合に応じて田の行動にも移行できるよう考えている。

〈状況変化への対応〉

特別な状況(入学式、卒業式などの「式典」、避難訓練の時など)を雰囲気から察知して、静かにしていることができる。しかし、長時間になると発声や動きが出始めることがある。そうした場合も、教師が真剣な表情で口の前で指を立てる「しーっ」の仕草をすると、それを理解し発声や動きを止めることができる。

・いろいろな学習場面において、本児の好きな活動や場面を設定し、自分から進んで活動できるようにしました。また、課題ができた時にはたくさん賞賛し、できた喜びを伝えました。

- ・意思がなかなか伝わらない時でも、励ましながら相手に自分の気持ちを「伝えよう」とする力を育てることに心がけました。
- ・本児が怒ったり、泣いたり不安定な時には、本児の気持ちを確認しながら(自己認識力の促進)を目指し、支援しました。

〈到達目標〉

- ・自分の思い通らない場面でも受け入れることができるようにする。
- ・場面が変わっても適応できるようにする。
- ・大きな声を出さずに、気持ちを伝えることができるようにする。

〈指導方法〉

- ・「していいこと」「していけないこと」は言葉や表情ではっきりと伝える。
- ・その都度繰り返して伝える。

〈課題〉

- ・次の場面を受け入れる。

担任した当時から、すぐに笑う点は気になった。はじめは、喜んでいるものと感じたが、その止まらない笑いが異常であるとは、すぐに気がついた。その後は易興奮性についてがあらゆる場面で気にするようにした。

(☆着替え→更衣室にて朝、体操服に着替えるが、他の生徒と時間をずらし、誰もいない状態で教員と1対1で行うようにした。その結果、時間はかかったが、担任して2年近くたつ現在では協力動作が増えてきた。)

対人では、配慮が必要。本児のことを(障害の特徴について)細かくは、知らない人が遊んであげたりすると、興奮してしまい、その後笑いが止まらないことがあった。

・教室内では静かで落ち着いた雰囲気を作った。

・全校行事等で体育館等に集合した時には「最後」に退場するようにした。人の流れに乗って退場すると、興奮して寝ころんでしまう。その状態から立たせるのはとても大変である。

・友達や教師との関わりを楽しむ

友達や教師と関わる場を多く設定する。

適切な動きと一緒に確認し、できたときはほめる(不適切な動きを助長させないようにする)

・情緒は全般的に安定しています。

(指導方法)

・友達と関わっている時には、本人の伝えたいことを担任が代弁しながら、適切な距離感で円滑にコミュニケーションできるように配慮する。

・刺激を抑えた教室環境、時間的ゆとりを持たせた学習活動。

・問題行動が見られた場合はタイムアウトを行う。

(対人関係)

・両親や担任の声がわかり、声のする方に自分から近づいてくる。

・両親や担任、良く関わってくれる人を見ると、笑顔になったり、身を乗り出したり後追いをしたりする。

・自分に関わって欲しい時には、手を伸ばし、服をひっぱたり髪をひっぱったりする。教師を引き寄せた時には、求めに応じてほほを合わせたり抱きしめたりすると、その後落ち着いて学習することが出来る。

(課題)

強く引っ張ることがあるため、力加減について学習していく必要がある。

興奮しやすく、人をつかんだり、物を投げてしまうこともある。ただ、対人関係の認識ははっきりしていて「思い切り掴んだりする」対象の人は特定されているように思う。異性、同性の差異はあまり感じていないようだ。まわりの雰囲気は感じる事が出来、たとえば卒業式など厳粛な場では静かに見守ることができる。

人間関係の不慣れな方との突然の入室等で突然その場から逃げようとする行動は時々あるものの、その行動も周囲に安心した人間関係が同居していれば殆ど気にならないほど安定してきている。

ビデオ鑑賞等で周囲の雰囲気、内容にかかわらず真剣に受け止めなければ行けない場面で、いつまでもゲラゲラ笑い続ける場面がしばしば見られた。雰囲気を感じ取ってもらう様な声かけをするがそれも長続きしないで、笑い続ける事があった。

到達目標

・人に対して適切な態度で接することができる。

指導方法

・好きな先生に対しては、抱き付く、体をすり寄せるなどの行動をしてしまう。その場で「さわりません」「だきつきません」と言い聞かせている。本生徒が好む教員に対して、なるべく生徒の手の届かない位置で言葉かけを行うように共通理解を図っている。

課題

・言い聞かせていてもあまり効果は、見られない。教員側が配慮して適切な距離で接する事が出来る様にしている。

紙片を持っていると、時々引き破る事があり、その都度、指導している。興奮する事はあまり見られない。他人との距離はあまり気にしていないようで、たまにべったりと言う感じで身体を寄せてきて、男女関係なく、抱くように手を回そうとしたりする事があるので、その都度注意。居住地校交流で、普段慣れ親しんでいないところに言った時、多動であちこち動き回るが、引率の職員の姿を常に視野に入れて動いており、見えなくなったりするとすぐに探しに来る。

・衝動傾向については必ず対象があるので、その都度何に興味を示しているのかよく観察し理解を示しながら共感し話しかけ、タイミングを見て目的の行動に向けて気持ちが切り替えられる様働きかける。また、団体行動が求められる時は本人の好む感触グッズなどを持たせ、興味が他にそれないよう対応することも効果的。
・易興奮性の課題については、悪ふざけが高じてしまわないよう普段から意図的に人に対して関わりを求める時の適切な表現方法を学ばせていく。また、悪ふざけが高じそうなときは、視線を外し係わらない様にしクールダウンを促す。
・人と関わりと気持ちが強いので、少しの時間でもいいので係わる時間をこまめに作り、楽しみながら人との距離感や係わり方、気持ちの切り替えなどを学習していく。

・集会等に楽しんで参加する。
・生活経験を拡大し、理解を深めると共に、繰り返し行う事で安心感情を高める。

(実態として)
・大好きな人に出会ったり、大勢の中にいるとうれしくて興奮してしまう。
(今年度の取り組みとして)
・時間を区切った行動のけじめ
・対人関係の適切なふれあい方の改善
・うれしくて他人の顔に手を出したり、腕をつかむ行為は強く注意する共通指導を行った。最近ではほとんどみられなくなった。
・行事の取り組みにおける繰り返しの練習
・何度も繰り返すうちに、やるべきことは覚えるので、本番当日多少、人の目がきになっても自分の役割は果たせる事が多かった。

目) 落ち着いて手段生活を送る。
指) 学校生活全般を通じた指導
学習(活動)と休憩のメリハリをつけつつ、活動の見通しを持ちやすい様、提示するよう心がけている。
課) 理解言語が増え、自分なりの見通しを持って学習に望んでいる。遠足や校外学習など特別な活動については、期待を持ちすぎしてしまう事が多いので、(体調を崩しやすい)今後の課題である。

〈目標〉・気持ちを切り替えることや、一つ一つの活動に気持ちを集中して取り組める時間を増やす。
〈指導方法〉
・次の活動へ切り替える時に声かけなどの支援をする。
〈課題〉
・気持ちが向かないと、かたくなに拒む傾向があるので、声掛け等支援の方法を工夫し、促す。
※全般に落ち着いて生活できています。拒む時の手や腕の力は強いですが、興奮してしまうようなことはありません。卒業式のように、静かにしなくてはいけない場面では声を出さず、落ち着いて椅子に座っていることができます。

〈到達目標〉
・叩く、髪を引っ張るなどはしてはいけないとわかり、優しく触れることが出来る。
・朝会等で落ち着いて静かに話を聞く。
〈指導方法〉
◎叩くなどの行動があった時は、真剣な顔で「だめ」とはっきりいう。
・「やさしくしてね」と手本を見せる。
◎声を出したり、足をばたつかつかせたりしそうになったら、小声で「静かにね」などと言いながら背中をさすったり、トントンと軽く叩く。
〈課題〉
・優しく触れることが少しずつできるようになったが、まだ、興奮したり気を敷きたい時に、突然乱暴な行動に出ることがある。
・場の雰囲気と、自分の取らなければいけない態度がだいぶわかってきたが、誰かと目が合ったり微笑みかけられると、うれしくなって興奮してしまう。

- ・好きな人が側にいると安心するが、少しでも離れると不安になり、大きな声を出したり、泣いたりして相手を求める。
- ・気持ちが不安定になったりすると、物や人に頭やあごなどをぶつける。
- ・自分が好きな物を持っていると気持ちが安定する。

興奮度が高まった時に、テンションを下げることで過緊張や心理的乱れを整える。

(方法)・動作方

- ・音楽療法ボランティア
- ・静かなBGM、ゆったりとした声かけ
- ・本人の意思を確かめる。(何を求めているか等)

目標・・・ビニールに対する固執の軽減、友達と適切な関わりを持ち、仲良く過ごす。

指導方法・・・ビニールを口にもっていかないように気をつけると共に、教師とのかかわりをふやし、ともだちや他の物への興味を広げる様にする。

課題・・・2学期は教師が演奏するギターを聞いたり、友達の様子をいすにすわり見て、一緒に楽しんでおり、ビニールに対する固執は軽減していたが、3学期になり、ビニールに触っていることが多くなっている。注意を引こうとして、ふざけたり、物の落ちた音などに反応し、笑い出すことがある。つばを吐いたりして相手を困らせることがあり、落ち着くのを待つようにしている。対人関係の良い関わりを教えていきたい。また、教師の言葉かけに対して、反射的に手がでることがあり、しばらく待つと適切な動きがとれることがある。

興奮しやすい傾向にあり、ふざけて笑い出すと止まらないような時もあるが、こちらが少し冷静になっていると、気付きも早いので落ち着いてくれる。(接している大人が原因、興奮を高めてしまうこともあるので反省している。)

・ボール・エスカレータなどで興奮。

相手を見て行動できる。相手を試す。→思い通りにできる場面、できない場面をわかるよう指導。

・多くの人のかかわりを持つようにし、時には厳しく、時には優しく。

・興味を持つもので遊ばせ、興奮度が高くなりかけた時に、別のことを注視させたり、その物を遠ざけたりしている。

・行事等へは積極的に参加させ、興奮した時もその場で、話をし、言い聞かせる。

好きな物(プロジェクター・スクリーン・パソコン等映像が見られるもの、CDデッキなど)を見つけると、それに向かって走り出したり、それらがおいてある教室に何度も行こうとする。また、授業で音楽がかかったり、映像を見る時には常に興奮状態であり、押さえることは難しい。

親しい教師や友達には、よく顔を近づけに行く。「遊ぼうよ。」など何か訴える様に叩くこともよくある。教師には抱きつくことも多い。

・教師の指示や名前呼びかけで、耳を傾ける場面が増えてきた。

(目標)・やりたいことを、行動に移したり、訴えたりすることができる。
 (指導方法)・目的物や絵カードを指さしたり、表情やジェスチャーで訴えさせる。
 ・我慢して欲しい時には優しく言い聞かせる。
 (評価・課題)・新しい環境や普段変わらない人が担当すると大声を上げて拒否しようとしてますが、事前に言って聞かせたり、場に立ち合わせたり、顔合わせしたりすることで理解することが多いです。基本的には人との関わりが好きです。遠足なども大好きです。
 ・見通しの持てない活動だったり、気に入らない取り組みだったり、活動に飽きてきたりすると、大声をあげて訴えてきますが、やらなければならないことを言って聞かせたり、場面を変えたり、大好きなビニール袋を差し出し一休みさせると、引き続き活動に鳥居組むことが出来ることが多いです。
 ・ビニール袋いじりは、心の安定にもつながっているようです。
 ・欲しい物は絵カードや目的部に向かって指や腕を伸ばし指し示すことができきたが自分から立ち上がって目的とする場所に行かせる様指導していきたい(転倒注意)
 ・感触など刺激(水・ビニール・木型など)やドラえもんなどの絵本を好みます。体験してきた内容の映像や写真を興味を持って見る事ができます。DVDも楽しそうに真剣に見入ることが出来ます。小さな昆虫を追いかけたり、観察したり、草をちぎったりすることも好きです。新しい場所でも慣れてしまうと興味・関心が旺盛です。一人で楽しむこともできます。
 ・友達とも落ち着いて活動することができます。風船バレーボールや台車遊び(順番や役割を理解し乗客になったり、台車も押ししたりできる)などにも楽しそうに友達と活動することができます。
 ・嬉しいと友達の首に手を回し抱きしめようとする。友達がほどこうとすると、力を入れて抱きしめてしまうが、素直に抱きしめさせると。満足し数秒で手を離す。

教員は普段、恭介君と笑顔で接していますが衝動的行動や興奮時は笑顔を見せず、冷静に話す様に心掛けています。今年度のはじめは変化をつけても、なかなか効果は得られませんでした。繰り返し指導することにより夏休みを過ぎたころから落ち着けるようになってきました。他害行為にでた時は、まず厳しい表情や叱責によって止めさせ、その後冷静に話しかける様に心掛けました。

。①衝動性②易興奮性の改善はあまりみられない。心理的には安定している方である。
 ③対人関係の適切な距離感・・・好きな児童には寄って行ってスキンシップを求めるので、過度になるときや相手の児童の反応をみて、話をして距離感をとらせる。
 ④TPO行動・・・高学年になっているので、最近では学年、学級のえのときの雰囲気わかり、行動できるようになってきた

・喜びが極まったり、やりたくないことをやらされうになると突発的に相手に向かって平手を出すことがある。
 ・大人に認められることを喜ぶ生徒なので、友達には握手(やたら体をつかまない)、撫でる(髪をつかまない)など、正しい関わり方を他者と接触のおきそうな場面で指導している。

<目標>・穏やかな関わりができる。
 ・まわりの人達とたくさんかかわる。
 <方法>・まわりにいる人へのあいさつ(自分からあいさつをしたり、答えたり)
 ・友達をたたかないために手をゆっくり下ろす練習。

○慣れない環境や人物に対して、強い抵抗を示すことがある。
 ○慣れない相手や食事や水分補給をすることに抵抗がある。食事は好き嫌いがある。
 ○子どもがたくさんいる賑やかな雰囲気を好む。知っている児童や職員がいる方へ近づいていく。
 ○気持ちが不安定になった時や体調が悪い時でも、楽しい雰囲気をつくると笑顔がみられる。
 ○授業中、話をよく聞いたり、作業に取り組んだりできる時間が長くなってきた。
 ○自分でYESとNOをサインで表すことができれば、さらに落ち着くことが出来そうである。

・人が好きであること、そしてより好きな人を見分けることが出来るので、好きな人とのスキンシップの時間を多く持ち、より快い良い関わりを持つことで接し方の約束を理解できるようになってきた。
 ・友達との設置方にも、相手に合わせたやさしい触れ合いが多く見られるようになってきた。

特に心配な面は見られない

(到達目標)・・・感覚刺激の受容や身体の動きの学習などを通して、気持ちの安定化や自己コントロール力の向上を図る。
(指導方法)・・・ニーズに応じた感覚受容により、気持ちを落ち着かせ、衝動性を緩和させる。姿勢や動作の学習を通して気持ちのコントロール力を身につけさせる。
(課題)・・・感覚のニーズのよりの確な把握。ニーズにより応じた内容の設定。達成感の持たせ方。

・突然大きな声を出して興奮状態に入ることがあるが、歌を歌ったり擬音語中心におもしろい言葉を言ってやると、興味に移り不安レベルが下がる。
・気分が良かったり甘えたい気分になると、教師や友達に対して近づいてなめたりたいたりする。教師から手をとって歌を歌ったりして、本人の気分の安定を図るようにする。
・教師の独占欲が強く、教師が自分以外の友達を褒めたり、友達の指導にあたっていたりすると注意を惹く為に、嘔吐したり、異尿したりする。自由自在に排尿や嘔吐ができる。
他の児童の指導に当たっていても、言葉かけをしていることで防ぐことができる。児童対教師が2:1になるようにして、友達との学習の楽しさや待つことの大切さに慣れさせていった。
課題
・1対1での模倣を中心とした学習では教育効果を得やすいが、2対1では言葉かけの工夫が必要である。

資料2 個別の指導計画の通り

- ①衝動性・・・友達が絵本を読んでいたたり、おもちゃで遊んでいたりする時にぱっと割り込んで取り上げてしまうことがあるが、その際には「～ちゃんがつかっていたよ」「～借してって聞いた？」など、本人に確かめさせて関わりを持たせるようにしている。本人が目の前にして遊んでいる時に、誰かの手が出てくると反射的に噛みつこうとしたり、本人の意図で手をたたいたり、噛みつこうとしたりすることがある。
- ②易興奮性・・・笑いすぎの状態や他者を威嚇しようとして「アー！」と叫び続けることがあるが、その際は「大丈夫だよ」「落ち着こうね」「～ちゃんは～したかったみたいだよ」などと言葉かけして、本人諭し「我に返る」ように気をつけている。
- ③「この活動の時はこの人と一緒にする」ときめつけることが多いが色々な場面で色々な人を心の支えにできるようになり、対人関係の幅がどんどん広がっている。また、大好きな友達への執着心がとても強く、どうしても自分に振り向かせようと強引に引っ張ったり、それが行きすぎると髪の毛をわしづかみしてしまったりすることがある。この点についても、「この友達はこういう子だ！」ということが少しずつ理解出来てきた様で、その子に応じた適切な関わり方ができる場面増えている。
- ④TPO・・・特になし。

- 到達目標・・・落ち着いて1時間1時間の授業に溶化することができる。
○指導方法・・・集中力がなくなってきたり、その場の状況によって無視したり、好きなものを持たせたりする。

業間、昼休みはウサギ小屋へ行き、好きなうさぎを見たり、えさをやって楽しむことで、こころがリラックスできているようです。

自分の思うようにならない時、好きな人と離れる時、場面の切り替え時(教室移動や休憩から授業への変わり目)等に嫌がったり、泣き顔になって「えーん」「うーん」と言ったりする。けれど、一瞬で気分が変わることもある。

(目標)学級以外の集団や行事などに参加し、教師と一緒に楽しく活動することができる。
座席があれば、式や集会にも大分落ち着いて参加できるようになっている。立ち上がることも減っている。周囲の様子がとても気になり、大きな喚声を上げたりもするが、ふさわしくない場合はそばにいる教員が表情をおさえてすわるように指示したり、口に指をあてて「しずかに」サインをしたり、気になるところの視界をさえぎるようにしたりすることで、切り替えることが出来るようになってきている。

一学期の始めの頃は、見る物すべてに手を出してみたいという状態で危険な場面もあり、強く手をつないでいました。しかし、6月以降の運動会のことから座位でもすわっていられるようになり、全校集会ではキャラクター人形やマイクを持つ人の様子を見つめ、落ち着いて楽しめるようになりました。

・昼休み等に同学年、他学年の友達と関わる際の、力の加減ができにくいことがありました。「そっと」「優しくね」などの言葉かけをすることで、特に低学年友達には優しく接することができてきています。
・しっかりあいさつができるように、朝の生活の時間、出会う友達、先生に「おはようございます」と頭を下げる練習をしています。
・悪いことをした時は「ごめんなさい」ができるように練習をしています。

〈衝動性・易興奮性の改善〉自発的な手足のばたばた、大きな発声などには必ず近くにいるものが頭を撫でたり、話しかけたりして共感して返すこと大事にしている。手足をバタバタさせると危険、転がると危ない場面では適切なオモチャを渡すことで即、興奮を抑えることが出来る。
〈対人関係・距離感〉現在は愛着を育てる時であり、自発的な行動(反応と取れ時もあり)を抑えるというよりもむしろ歓迎して人間関係を構築していくことの方を大切にしている。人に抱き付く。髪を掴む(呼んでいるつもり)も、特定の数名の相手に対してである為、問題はなし。父親に似ている男性に対してしがみつこうとするがこれは止める。
〈TPO〉こちら側で決めていることがあるが、スーパー、道路など公共の場では座り込まない。道の端の座れる所に座ったり、教員や壁にもたれて立つなど。「待っててね」「立ってようね」などと声をかけて座り込まないようにする。言われていることは分かっている様子。

・集団の中で授業をしていると、まわりの動きを見て、大汗をかくほ興奮してしまうことが多いです。授業と授業の間には、必ず教室に戻り、静かにして休息を入れるようにしました。
・興奮をほどよく言うことが、いちばん難しく感じています。

・笑いが頻繁の時
刺激を遠ざけたり、周りが笑っていない状態を作る。
・対人関係の適切な距離感
担当者が支援したり、その場から離れるようにする。

本児は意志表示がはっきりしていて、いやな時は側に居る人をたたいたり、体をのけぞらせたりして主張する。興味や関心を引くように誘導したり、気持ちを他にそらせたりして対応している。

カーテンで仕切るなど、刺激を減らした環境での活動。
・他の児童と遊ぶ際、感情が高まりすぎると足で蹴る、手で叩く操作が出る。(実際にたたいたり、蹴ったりはあまりなく、そのような動きが出る。対教師の方が多い)～言葉による制止でやめることができる。実際に足や手があたってしまった時は謝ることができる。

指導課題

・心身のリクラゼーションを通して、心理的な安定を図る

指導方法、配慮事項

・大げさ言葉掛けや身振りは控えめにし、ゆっくりとし支援を行う
・学習に取りかかる前に一旦着席させて水分補給などを行い、その都度気持ちを落ち着かせてから次の課題に取り組ませる。
・感覚運動遊具を使い全身の弛緩を促す

私は優さんが中3の時にも接しており、嬉しかったり好きな教員に会うと抱きつき、そうでない場合にはぶつかったりひっかいたり・・・という場面がありました。高2では少し見られたりしましたが高3ではほとんどなくなり、いつもニコニコしているようになりました。

好きな人に対しては全身で喜びを表し、抱きついたりする。初めての人や慣れない人には、髪を引っ張るなどして不安感や不快感を表すことが多い。好きな人、かかわってほしい人が近くにいると手を振って(おいでおいで)呼ぼうとする。卒業後多くの人の支援を受けることを考え、初めての人とでも落ち着いて関わって欲しいと考えた。好きな人(担任)を中心にしながらできるだけ他の教員と関わる場面を設定した

物にじっくりかかわって遊ぶ。①手を使う活動 ・ボール遊び、……容器から外にボールを投げ出す。別の容器に入れ替える。 ・水遊び……洗面器などに水を溜めて別の容器に移し替える

注目を引くために、友達を押ししたり、叩いたりすることがある。…「優しくしてね」と言って聞かせ、撫でる動作を教えている。要求が受け入れられないと、椅子を投げたり、床に寝転がって足をばたつかせたり、大きな声を出したりする。…騒いでいるときは無視して、騒ぐ事に影響力がないことを知らせる。興奮が静まった頃合いを見計らって、静かな声で教諭すと、素直に指示を聞くことが多い。特別な場所に行くとき、式などに参加するときには、カードを見せて、これからどこへ行くか、何をするのか、言い聞かせる。

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について
2. 自立活動の学習

3) 環境の把握

人への関心が強く、怒られると反省した様子になったり、楽しい話題には笑ってその場の雰囲気と同調している。

周りがやっていることを「自分も！！」とやりたがり事が多いので、一緒に活動できるよう配慮している。友達や好きな人などに関わりを多く求めるが、力加減がまだ分からず、強くたたいてしまうことがある。「こうやってやさしくトントンね」などと一緒に呼び方をやってみたりするが、まだまだ難しい。教師が行動前に気づき「一緒に遊ぼう」などと本児と一緒に他児にトントンと呼ぶようにしている。

- ・「もどす」後の処理→前に飛び散らないように準備
- ・「におい」をこもらせない。トイレは特に窓を開けた状態で
- ・「人の物はさわらない」→「ダメ」と止める
- ・「つばはき」はハンカチで口の前で人にとばないようにとめる。

大きな音、音楽、振動、水に興味をもって興奮しやすいので、学習に集中市内といけな場面では、極力取り除くようにしている。水泳や音楽の授業などでは、本人の興味を最大限に利用し、大いに水や音楽にふれあう学習を行うようにしている。
「順番を守る」「人の給食は食べない」などのルールは理解していて、衝動的にまもれないことはあるが、声をかけると守ることができる。遊びのルールはあまり理解できない。きつく抱きつく、叩く、つばをはきかけるなど、人にしてはいけないルールについては、前述の通り、なかなか理解できない。

興味があることで簡単な約束をすると(「～がんばると電車にのれる」等)待つことや順番を我慢できるようになってきている。

特に目標は設けませんでした。

- ・絵や写真カード、具体物を使って伝えたり、本人からの要求に写真カードを選ばせたりしています。
- ・対人関係のルール…順番を待つことなどは、椅子に座って待たれたり(遊びの順番など)、話をしたりしています。

- ・力が加減できるようにする。…物や人に対して”やさしい手”で働きかけるよう言葉かけをしている。ちょっとした周囲の否定的言葉に対応して、たたく、ける、つばをはくなどはあるが、少なくなってきた。
- ・刺激的な物はおかない。…水、液体などのイタズラしたくなるような物を目のつくところにおこないようにする。やりたくなることを見通して環境をととのえる。

難しい

周囲の観察力に優れており、教師からの声掛けがなくても、周囲の動きを見て、自分で行動する事ができています。また、移動の時も、「次は～の教室だよ。」と声をかけるだけで、自分で移動するようになりました。

集会などの集団場面においては、整列時の自分の立ち位置や並び順を毎回同じにする事で、動きを覚えて声や支援がなくても、自ら動く事ができています。

また、教師が前に出て話をする時は、姿勢を正し、話し相手に注目するようにと学級内できめています。これについては、今までの積み重ねや他の生徒がやっている様子を見て、自分も同じようにしなければならぬと理解したようです。

対人関係については、心理的な安定に記述した通りです。

「到達目標」
具体物の弁別

「指導方法」
プリンカップと紙コップなど、触感や外見が異なる物を使います。

「課題」
刺激のない1対1の環境であれば、できるようになったが、それでは実際の生活の場ではなかなか使えるようにならない。

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教室の整備&構造化し、わかりやすくしている。 ・常に見本となる友達等をみせるようにさせている。(決まりルールの理解) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・刺激が入りやすいので、周りをすっきりさせ、学習環境を整える。 ・音に敏感で、音楽が好きなので、歩行の際や気持ちを切り替える際に本人の好きな歌やなじみのある歌を歌ったり、リズムのある言葉で、本人に働きかける。 |
| <p>いろいろなものを見たり、触ったりして、様々な活動を経験出来るようにする。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・情報が多すぎる事で、混乱が起きやすい事から、視界を狭めたり、選択肢を少なくする。 ・例えば、給食の食器の片付けの場面では、食器の種類が多すぎるとマッチングがうまくいかない。現段階では、1種類ずつ置く場所に持って行く形を取っている。 |
| <p>手が敏感で、手洗いをいやがってしまうので、できるだけ短時間で住むように泡状石けんを使ったりしている。(具体的にどうゆうことなのわかりません。こういうことでよいのでしょうか)</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・感覚・知覚の特性に応じた配慮、対人関係におけるルールの理解など熱い物は危険と認識している。しかし、危険認知能力は低いと思われる。 ・人に対してのつば吐きなどは注意の有無にかかわらずエスカレートする場合がある。その場合は集中して出来る物や好きなもので注意をそらすようにしている。 ・慣れない環境では、精神的不安を感じているようで比較のおとなしくなる。信頼できる人の手を引こうとする。 ・人が大勢いる場所では比較的に落ち着いている。(不安でおとなしくなる?) |
| <p>周囲のくさすメートの行動に注視させる事で、周囲を意識するようになってきた。やりたいという要求があるときも順番を守るというルールや一つの物を共有する必要性を指導した。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・理解している部分もあるが、適宜対応は難しい。 ・音、光に対しての過敏性はない ・あまり叱られない職員(女性)に悪戯をすることが多い。ただし、ある程度の手加減している印象はある。一方、主治医等、時に叱る職員に対しては、かえって悪戯を、担当者等の厳しい職員に対しては手を出さない。総合的には相手を見て行動しているが、ルールを理解している印象はない。 |
| <p>人や物を注視する、し続けることは難しい場面が多いが、周囲全体の状況を見ており、自分が好きなものを探したり、自分の進路に向かっていくので、友達を乗り越えたりしないように注意することが必要である。教員の声掛けを自分なりに受け止めたり、いろいろなものに触って確認してみたりするなどして過ごさせている。環境の変化への気づきが早い。乱視である。眼鏡を使用していたこともあったが、眼鏡を噛むなどしてかけ続けることが難しい為、使用をやめている。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・活動の順番を理解する。 ・活動の中で手を使う、離す経験を多くする。 ・うがい、手洗いの習慣をつける。 |
| <p>(記録)・けがをして処置したガーゼやテープは、気になりすぐにとってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の登り降りは、手すりがあれば一人ではできるが、手すりがない場所では登る時に歩行が不安定になり、手が前についてしまうことが多い。 ・朝の会や帰りの会、給食の準備など座って待っているルールを理解することが難しく、友達の近くに出歩くか、自分の好きな場所に行ってしまう。 |
| <p>観察力が優れているので、だいたい把握している。</p> |

・気になる物にとらわれていると、他の事はお留守になりがちです。いづれ、自分でも安全確認出来るようになって欲しいので、教室からプレイスペース(子ども達がめぐるしく動き回っている)に出る時、身体を一旦止めて、状況を見させるようにしています。

・対人関係では、自分から人に関わりたい気持ちがとても伸びてきているのですが、その働きかけ方や、力の加減がまだうまくいきません。御願いの仕方や、誘い方のスキルを見本で示すようにしています。また、順番を待つ時は、イス(待ち席)に座らせるなど、自分の順番が視覚的にも確かめられるようにしています。

目標)・手指をたくさん使って、意欲的に活動に参加する。

・音楽に合わせて、楽しく身体を動かす。

・少人数の集団の中で、落ち着いて行動することができる。

指導方法)・興味有る曲を選び、音楽に合わせて一緒に踊る。

・素材に触れたり道具を使用し、意欲的に活動を行う事が出来るようにする。支援や声掛けを行う。

フロアーにおいてパーソナルスペースを認知しており、夜間等はそこで入眠する。眠らなくても、その場所でじっとしている。

人を見る力、選ぶ力を有る意味で持っていたので、対人関係では誰とも関われるということではなく、特定の教師とのかかわりを求めていたという印象があります。できるだけ、多くの人との関わりをもち、人間関係を広げていけるよというねらいはありました。活動内容により、かかわる教師が変わるといった方法をとっていたと思います。活動する場所が変わることで、「この活動は、子の先生と」というように理解しやすかったと思います。

対人関係において明確なルール作りについては至っていない。今のところは「はなして」や「今は違うよ」等の言葉掛けをその場、その場で言いながら対処している。感覚敏感なところは多少あると思うが、通常の配慮でよい。

目標:

・ルールを守る。

・自分のおかれた環境を把握する。

取り組み:

・順番を待つ場面では、待つようにする。

・たいこ橋や平均台などの運動器具に取り組む

・必ず本人の意思を確認し、納得できてから活動する。

・対人関係はルールを確認し、うまく行かない時は、正しいやり方を示す。

・自分の指をかんだりする。

・口に物を入れる。

他に興味のある物を渡し、そちらに関わらせる。

〈保有する感覚の活用〉

校舎内で自分の関心がある所(写真の掲示してある場所、食堂など)について空間的に有る程度理解しており、自分で車椅子をこいで移動することができる。そうした空間認知の感覚を活用できるよう、探索活動(歩行訓練を兼ねての「校内歩行」)を行うことで、自分で好きなところに移動したいという意欲を形成することを目標としている。

・自分の靴箱やロッカーの場所は分かりました。

・教室、トイレの場所が分かり、自分から移動することが出来ました。

・色やマークが分かり、色やマークで自分の場所や物を理解できました。

〈到達目標〉

・友達や先生との適切な関わり方を身に付ける。

〈指導方法〉

・朝の会や帰りの会に友達や先生と仲良く参加する。

・朝の会や帰りの会の司会をする。

・あそびを通して、友達や先生との適切な関わり方やルールを知る。

〈課題〉

・必要な場面では、友達や先生からの関わりに拒否せずに応じる。

刺激を少なくするように、教室の整備は行った。例えば横をむいたり、のけぞったりする傾向があり、給食を食べている時に、廊下を通る人が教室のドアから「ちらっ」と見えると、食べる途中であっても「グッ！！」とそちらを見てしまい、こぼしてしまう。1回目は、人が通るのが気になれば振り向くのはわかるが、例えば5回人が通ったら5回とも振り向いてしまうという点があった(中1の時)。現在、中2では、食堂で食べている本児が食べ始めた頃に配膳の所に多くの生徒が並ぶ。するとその人々が気になり上記と同じようなことになる。☆人を気にして見ているので、人の流れが終わるまで食事は中断する。人の流れの終わった後も、チラチラとそちら側を見てしまうが、この点については、スプーン一口もつて、口に入れる手前で声掛けをして正面を向かせるようにした。

・いろいろな活動を楽しむ中で、興味・関心の幅を広げる。いろいろな感触の物に触れたり、トランポリン、ボールプール等、感覚に訴えるような場を増やした。
・対教師では過度な接触にならないように気をつけました。よく遊んでもらえると思ったら、その教師の近くで座り込んだり「Ehhh」というような笑いをして気を引こうとすることがあったので、そうならないように気をつけました。
・不適切な行動をした場合に、注意するというより、不適切な行動にならないように環境など気をつけた、適切な行動ができた時は「すごいね」「がんばったね」といっばいほめるようにしました。
・ほっぺたを教師やお友達のほっぺたにつける安心(?)するのか、よくつけてきます。年齢などを考えて、手でつついたり、手であつしくんのほっぺたを触ったりしています。

ビニールやキラキラな物、そういった強く関心を持つ物を通して、その中身に気付かせたり、それを使ってやりとりをする。いろいろな物に関心が持てるように心がける。

・物の指示や仕方や活動のきっかけとなるような声掛けをする。

・自分の持ち物がわかる(かばん、車イスなど)→周りのもの、友達のものに手を伸ばした時には、「人のほしくないよ」と言葉で伝えて、手に軽くふれて知らせている。
・教室内は、遊ぶ場所、荷物を置く場所、意思表示を表すところ、おやつをいれているところなど場所を分けている。どこに何があるのかおおよそ分かっていて、教室で落ち着いて生活している。

視覚、聴覚とも鋭敏で記憶力もよい。ふだん過ごしている教室などでは落ち着いているが、初めての場所では好奇心が働き、隅々までチェックして回る。対人に関係でルールなどは意識しないが、初めての人と関係が出来る人ではコミュニケーションの取り方が明らかに違う。

新しい人間関係による苦手意識、慣れるまでにかかる時間等、依然としてある事はあるが、年齢が上がるにつれて、その苦手意識の強さは、少しずつは改善にむかいつつはある。新しい人、慣れない人に対しても、極端な苦手意識は減りつつあり、うち解けられる様になるまでの時間も短くなってきている。ただ、現場実習等、周囲の環境がガラッと変化した時の適応力の低さは、依然として残っている。何事が起きたのかと思うほどの鳴き声で、号泣することが1度あった。(現場実習時)

到達目標

・感覚刺激を受容する事が出来る。

指導方法

・手遊び歌(顔・体の触圧覚刺激) *ことば参照

課題

・手遊び歌は好むが、顔に触られる事は嫌がる。

到達目標

・認知の手掛かりとなる概念の形成を促す。

指導方法

・探索行動 *かず参照

教室が変わったり職員が変わったりする事に、あまり抵抗は見られない。普段接触の少ない職員との排泄はうまくいかず、いつもの職員とではできないということもあった。友達同士より、職員との関わりが多い。体を動かす事が好きで、関わってくれる職員には喜んで就いていく。叱られる事も、関わってもらっている(遊び)と思っているような部分がある。

・痛い時や苦しい時にも、笑いが出してしまう事があるので、体調についてはバイタルサインを良く見極めると共に、体の訓練などを行う際には十分に考慮し、あまり無理をしないよう心がける。
・手足の感覚の鈍麻が見られるようで、ささくれや爪をはがしてしまうことがある。また、その行為に固執する様子も見られるので、傷口をしっかりとテーピングすると共に注意を他にそらせるような対応が必要。

・人を押さない。

・物を投げない。(投げる前に言葉や手等で止め、投げずにすむ経験を積む。投げずに目的の場所に入れる活動に換えることができる。)

・集中して課題に活動できる時間を増やす。

(実態として)

・発言はないが、発声はある。

・言葉の指示で動ける事がある。

(今年度の取り組みとして)

・手本やまわりの友達の動きを見せる事で、自ら同じような行動がとれる様にした。まわりの動きをみなくても「起立」の声掛けだけで立つこともあった。

目)受け入れられる感覚の中を広げる

集団の動きを意識する。

指)学校生活全般を通じた指導(色素 薄いことに対して)

視力・・・教室環境を整える。光をカーテンで遮る。教材提示の色や位置を考える等。

肌・・・外出時の日焼け止めクリームの使用など

課)好きな活動、楽しい見通しが持てる活動(うどんづくりなど)であれば、触覚防衛もありつつ、活動に取り組める。今後も引き続き取り組みたい。対人関係においては、相手の「イヤ」をどう理解するか。また、今後の課題である。

〈目標〉

・声掛けで行動できることを増やす。

〈指導方法と課題〉

・授業等で教室を移動する際は、一人で歩いていく様促しています。依存心が強く、教員の腕を組んで頼ろうとすることが多かったですが、次第に身につけてきています。

・給食の運搬の際は、牛乳を担当しています。200ccのパック10個分がビニール袋に入った物を、手提げカゴに入れて運びました。両手でも持てますが、階段の上げるがあるためカゴを使っています。自分の仕事と心得ています。

・給食時にエプロンを着けることが、その感覚がイヤなのか、両手を突き出して拒むことが常でした。給食の準備の時、自分の給食を取りに行く前、食べ始める前というように、機会を見て着用を試み、最終的にエプロンを着けて給食を食べるということを習慣づけました。現在も拒むことが多いのですが、以前と比べると受け入れることが増えました。

・集中して学習に取り組ませたい時は、周りに気になる物や人などがなるべくないようにしている。

(目標)：一日の各場面において場所や人や内容がほぼわかって活動できる。

・場面によっては、人との距離やかかわり方がかわることをわかって適応できるようにする。

(方法)：言葉かけ、写真で直接見てとか出向いて、道具で理解、実際参加(交流など特に)

目標・・・手指の巧み性を高める

指導方法・・・個別学習では、パズルやペグさしの連取をしている。朝の会では、名前やお天気カードを黒板にはる。お天気シールはり、マジックでカレンダーに印をいれることに取り組んでいる。ファイルや給食袋をフックに掛ける練習をしている。

課題・・・お天気カードは枠を意識してはろうとしている。マジックでカレンダーに印をいれようと手を動かしているが、力が弱い。フックを目指して掛けようとしているが、確実ではないので継続した指導がいる。

・クラスの活動におきて友達への働きかけの仕方。

・自分がやらなければならないことの理解。

興味、関心が様々なものに向かうので、学習場面では環境の整理に配慮した。気になる物を周囲に置かないことで、本児の集中する力を妨げないよう気をつけている。対人関係においては、その都度ことばかけをしていくことを大切にしたい。

・強くてたさきそうになった時→手を持ってやさしくたかせ「トントン〇〇ちゃん、だね」

・ぎゅっと強くつねりそうになったとき→やさしく握りかえす等

本児は相手と関わりたいという気持ちがあり、それが強いかわりになってしまうこともあるので、そうでない関わり方を覚えてほしい。

・感覚、知覚の特性に応じた配慮・・・観察力があるので、興味のあるものなどを奥場所に気をつける。

・対人関係におけるルール理解・・・していいこと、悪いこと、今どうすべきかをわかるように指導。

CDデッキ等好きな物や気になる物があると、そこに意識がいきまいて、その時しなければならないことに集中しにくいので、できるだけ活動の妨げになる物は置かず、課題に集中できるようにすることが必要である。

教室等の場所で判断しているのか、授業の担当の先生はほぼ理解できているようで、好きな授業では、担当の先生に何かを訴えるように近づいていくことも多い。

・ほしいものがあつたり、やってもらいたい事があつたりすると、教師の手を持って要求する行動が出てきた。

・興奮したり、テンションがあがってしまい笑いが止まらなくなると、乱暴な行動があるが、教師側が落ち着いて関わることで、「してはいけない」「今は、注意をうけているんだ」ということが、感覚的に伝わって来ているように見られることが、増えてきた。

(目標)・初めての場面でも、落ち着いた行動がとれる。
 (指導方法)・いろいろな場面を経験させる。
 ・事前学習を行い見通しを持たせる。
 (評価・課題)・人への関心が強い為、授業参観などでは参観者と一通り挨拶させ、満足させてから活動に入る様に心掛けています。また、登下校時の補装靴の履き替えでは、人の往来が多い下駄箱での活動をさけた場所を着脱練習(更衣室前廊下で椅子に座って)を行っています。T校外学習に興味を持ち参加し、公共施設や公共交通機関利用時でも、集団の中で落ち着いて行動することができます。
 ・多くの生徒が集まる行事にも、関心と興味を持って参加でき、友達の中で楽しく活動することができます。
 ・場面(校外)にかかわらず、嬉しいことや感謝したいことがあると、その人(性別、年齢に関わらず)を抱きしめてしまうことがあります。
 ・修学旅行で初めて新幹線に乗車しましたが、落ち着いて雰囲気を楽しむ様に乗車していました。
 ・泣いている子、叱られている子がいると、自分も悲しくなってしまうこともあります。避難させることはありませんでした。

感覚・知覚の特性に応じた配慮、対人関係におけるルールの理解などは「生活単元学習」の時間に重きを置き指導してきました。

- ①感覚、知覚の特性に応じた配慮・・・体温調整が困難なので、冬は暖房、外に出る時は防寒具や手袋を着用。夏は熱がこもるので、冷房、水分補給、体育のときは早めに教室にもどり、顔、頭を冷やす。
 ②対人関係におけるルールの理解・・・相手の表情を見て、自分で気づく時や介助者が指でバツをすると理解するときもある

・触覚、聴覚過敏などは特になし。背中など自分の目の届かない部分に対しては過敏触れられるのに、過敏になることもある。

教科、領域の中で動作模倣等を通しておこなっています。

- 注視、追視ができる。ものをよく見て、簡単なまねをすることができる。
 ○写真に対して関心が出てきた。学校でお気に入りのTVキャラクター(ワンワン)本を手に持って長い時間(15分以上)絵を見たりはぐったりできた。
 ○音楽を聴くことが好きで、曲が流れると身体を動かしてうれしい気持ちを表す。
 ○温度に敏感であるが、いろいろな感触のものに抵抗なく触ることができる。特に、水や光る物、ビニール素材の感触に強い関心を示し、集中して触る。

授業の中でのメリハリたとえば音楽では、合奏やダンス等身体を使って音を表現するものと、静かに聴く鑑賞するものを胃えっる。経験を重ねることで、周りの友達と一緒に楽しむこと場の雰囲気を理解してその雰囲気を味わう楽しさが分かってきた。居住地の小学校での交流でもその成果を見せている。

- ・人に感心を示す反面、近づいて来られると避けようとするところがある。
- ・友達の見ている本を取ろうとすることが、時々見られる。
- ・色々なことに興味をもっているが、新しい事が現れるとそちらに興味があつり持続しない。